

D. 考察

患者の苦悩は多様であり、スピリチュアルケアは個別性の高いケアではあるが、スピリチュアルな苦悩を抱える患者のケアに適用可能な要素を抽出することができた。今後、他の研究で行われている患者調査、遺族調査などの結果とあわせて、臨床ケアにあたる者の教育・研修に有用なスピリチュアルケアガイドを作成する基盤となる。

E. 結論

熟練専門職のケアプロセスからスピリチュアルケアの要素を抽出した。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. Shinjo T, Morita T, et al: Care for the Bodies of Deceased Cancer Inpatients in Japanese Palliative Care Units. *J Palliat Med* 13:27-31, 2010.
2. Shinjo T, Morita T, et al: Care for imminently dying cancer patients: family members' experiences and recommendations. *J Clin Oncol* 28:142-148, 2010.
3. Okamoto T, Morita T, et al: Religious care required for Japanese terminally ill patients with cancer from the perspective of bereaved family members. *Am J Hosp Palliat Med* 27:50-54, 2010.
4. Ando M, Morita T, et al: Factors that influence the efficacy of bereavement life review therapy for spiritual well-being: a qualitative analysis. *Support Care Cancer* 19:309-314, 2010.
5. Nakazawa Y, Morita T, et al: The palliative care self-reported practices scale and the palliative care difficulties scale: reliability and validity of two scales evaluating self-reported practices and difficulties experienced in palliative care by health professionals. *J Palliat Med* 13:427-437, 2010.
6. Hyodo I, Morita T, et al: Development of a predicting tool for survival of terminally ill cancer patients. *Jpn J Clin Oncol* 40:442-448, 2010.
7. Ando M, Morita T, Akechi T, et al: Efficacy of short-term life-review interviews on the spiritual well-being of terminally ill cancer patients. *J Pain Symptom Manage* 39:993-1002, 2010.
8. Ise Y, Morita T, et al: Role of the community pharmacy in palliative care: a nationwide survey in Japan. *J Palliat Med* 13:733-737, 2010.
9. Ando M, Morita T, et al: Value of religious care for relief of psycho-existential suffering in Japanese terminally ill cancer patients: the perspective of bereaved family members. *Psychooncology* 19:750-755, 2010.
10. Yamada R, Morita T, et al: Patient-reported usefulness of peripherally inserted central venous catheters in terminally ill cancer patients. *J Pain Symptom Manage* 40:60-66, 2010.
11. Akazawa T, Akechi T, Morita T, et al: Self-perceived burden in terminally ill cancer patients: A categorization of care strategies based on bereaved family members' perspectives. *J Pain Symptom Manage* 40:224-234, 2010.
12. Hisanaga T, Morita T, et al: Multicenter prospective study on efficacy and safety of octreotide for inoperable malignant bowel obstruction. *Jpn J Clin Oncol* 40:739-745, 2010.
13. Igarashi A, Morita T, et al: Changes in medical and nursing care after admission to palliative care units: a potential method for improving regional palliative care. *Support Care Cancer* 18:1107-1113, 2010.
14. Ando M, Morita T, et al: Effects of bereavement life review on spiritual well-being and depression. *J Pain Symptom Manage* 40:453-459, 2010.
15. Ando M, Morita T, Akechi T: Factors in the short-term life review that affect spiritual well-being in terminally ill cancer patients. *J Hosp Palliat Nurs*

- 12:305-311, 2010.
16. Choi J, Morita T, et al: Preference of place for end-of-life cancer care and death among bereaved Japanese families who experienced home hospice care and death of a loved one. *Support Care Cancer* 18:1445-1453, 2010.
 17. Yamagishi A, Morita T, et al: The care strategy for families of terminally ill cancer patients who become unable to take nourishment orally: Recommendations from a nationwide survey of bereaved family members' experiences. *J Pain Symptom Manage* 40:671-683, 2010.
 18. Ando M, Morita T, Akechi T, et al: A qualitative study of mindfulness-based meditation therapy in Japanese cancer patients. *Support Care Cancer*. 2010 May 16. [Epub ahead of print]
 19. Ando M, Morita T, Akechi T, et al: Development of a Japanese benefit finding scale (JBFS) for patients with cancer. *Am J Hosp Palliat Care*. 2010 Sep 8. [Epub ahead of print]
 20. Yoshida S, Morita T, et al: Experience of families of Japanese patients with cancer for prognostic disclosure. *J Pain Symptom Manage*. 2010 Dec 9. [Epub ahead of print]
 21. 荻野和功, 森田達也: がん医療はどう変わったのか「がん対策基本法」施行から2年半. 浜松地域のリーダーとして現場のニーズを常に念頭に入れがんになっても安心な環境づくりに取り組む. *medi.magazine* 冬号 通巻 04 号:20-24, 2010.
 22. 井村千鶴, 森田達也, 他: 浜松市のがん患者に対するケアマネジメントの実態調査. *緩和ケア* 20:92-98, 2010.
 23. 森田達也: シリーズ「がん」緩和ケア、普通の暮らしを願って. 朝日新聞社 <http://www.asahi.com/health/essay/TKY201001280383.html>, 2010.
 24. 森田達也, 他: 特集 進歩するがん診療 鼎談②緩和ケアの最前線. *日本医事新報* 4475:45-55, 2010.
 25. 森田達也, 他: 末期がんだけではない「緩和ケア」は、ここまで進化した. *ナーシングカレッジ* 14:44-50, 2010.
 26. 森田達也: 13. 輸液・栄養補給 Q66 終末期の輸液の考え方を教えてください. 一般病棟でできる緩和ケア Q&A 改訂版(編) 堀夏樹, 小澤桂子 総合医学社. *ナーシングケア Q&A* 第 32 号:146-147, 2010.
 27. 森田達也: 18. 鎮静 (セデーション) Q83 鎮静とは何ですか?. 一般病棟でできる緩和ケア Q&A 改訂版(編) 堀夏樹, 小澤桂子 総合医学社. *ナーシングケア Q&A* 第 32 号:182-183, 2010.
 28. 森田達也: 18. 鎮静 (セデーション) Q85 鎮静に使われる薬剤の使い方を教えてください. 一般病棟でできる緩和ケア Q&A 改訂版(編) 堀夏樹, 小澤桂子 総合医学社. *ナーシングケア Q&A* 第 32 号:186-187, 2010.
 29. 吉田沙蘭, 森田達也, 他: 難治性小児がん患者の家族が経験する困難の探索. *小児がん* 47:91-97, 2010.
 30. 森田達也: 緩和医療 緩和ケアチームと緩和ケア病棟. *臨床麻酔* 34 臨時増刊号:431-443, 2010.
 31. 井村千鶴, 森田達也, 他: 地域における緩和ケアの連携を促進する取り組みフォーカスグループの有用性. *緩和ケア* 20:204-209, 2010.
 32. 社団法人日本医師会(監), 森田達也(編), 他: *がん緩和ケアガイドブック*. 青海社. 東京. 2010. 4.
 33. 井村千鶴, 森田達也, 他: 地域における緩和ケアの連携を促進する取り組みフォーカスグループの有用性 ②. *緩和ケア* 20:308-312, 2010.
 34. 井村千鶴, 森田達也, 他: 緩和ケアチームによる診療所へのアウトリーチプログラムの有用性. *癌と化学療法* 37:863-870, 2010.
 35. 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会(編集): *がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン* 2010 年版. 金原出版株式会社. 東京. 2010. 6.
 36. 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会(編集): *苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン* 2010 年版. 金原出版株式会社. 東京. 2010. 6.
 37. 森田達也: 末期肺癌の緩和ケア(Q&A). *日本医事新報* 4497 号:79-80, 2010.
 38. 森田達也: 経験したことを伝えていこう 研究論文の書き方 第1回 論文を書く、

- その前に原著論文の査読システムを知る。緩和ケア 20:379-383, 2010.
39. 井村千鶴, 森田達也, 他: 地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み—フォーカスグループの有用性³⁾。緩和ケア 20:417-422, 2010.
 40. 森田達也: がん性疼痛治療 がん性疼痛ガイドラインの作成。Mebio 27:24-28, 2010.
 41. 森田達也: IV. 緩和医療 1. 緩和医療概論。(編集) 大西秀樹 中山書店. 専門医のための精神科臨床リュミエール 24 サイコオンコロジー:150-163, 2010.
 42. 森田達也: 経験したことを伝えていこう 研究論文の書き方 第2回 「はじめに」を書く。緩和ケア 20:513-516, 2010.
 43. 森田達也: 在宅の視点をもった緩和ケアチーム。地域緩和ケアリンク 10月号: 2, 2010.
 44. 小田切拓也, 森田達也: そこが知りたい! 緩和ケアにおける服薬指導 第1部 緩和ケアにおいて服薬指導に何が求められるか。緩和ケア 20 巻10月増刊号: 2-5, 2010.
 45. ○森田達也, 内富庸介, 他: がん患者が望む「スピリチュアルケア」89名のインタビュー調査。精神医学 52: 1057-1072, 2010.
 46. 伊藤富士江, 森田達也, 他: がん在宅緩和医療の課題と解決策に関する診療所医師を対象とした訪問調査。緩和ケア 20:641-647, 2010.
 47. 余宮きのみ, 森田達也: がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版を読み解く オピオイド鎮痛薬を中心に。ペインクリニック 31:1477-1483, 2010.
 48. 森田達也: 経験したことを伝えて行こう 研究論文の書き方 第3回 「対象・方法」を書く。緩和ケア 20:605-610, 2010.
 49. 新城拓也, 森田達也, 他: 主治医による死亡確認や臨終の立ち会いが, 家族の心理に及ぼす影響についての調査研究。Palliat Car Res 5:162-170, 2010.
 50. 赤澤輝和, 森田達也, 他: 緩和ケアについての市民・患者対象の啓発介入の実態調査。Palliat Car Res 5:171-174, 2010.
- 学会発表
1. 森田達也: 教育講演2 緩和治療の最新のエビデンスと実践。第8回日本臨床腫瘍学会学術集会。2010. 3, 東京
 2. 森田達也: シンポジウム 1-1 がん疼痛治療を見直してみる—新しい「がん疼痛ガイドライン」をめぐって—。「疼痛ガイドライン」を読むために必要な臨床疫学の知識。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 3. 森田達也: シンポジウム 2-3 遺族による緩和ケアの質の評価—J-HOPE 研究から見えてくるもの—。遺族研究から見た「望ましいケア」: 家族の声をしっかりと聞く。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 4. 森田達也: パネルディスカッション 5-1 実証研究から見るスピリチュアルケアの方向性。患者自身が望む「スピリチュアルケア」: 89名のインタビュー調査から。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 5. 森田達也: 臨床研究ワークショップ 1-1 臨床家が知っておくべき臨床研究の知識と緩和ケアの臨床研究の基本。臨床家が知っておくべき臨床研究の知識と緩和ケアの臨床研究の基本。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 6. 森田達也: ランチョンセミナー1 「がん疼痛ガイドライン」を臨床で役立てる: 実践。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 7. 三條真紀子, 森田達也, 他: 「終末期がん患者の家族が大事にしたいと思うこと」の概念化: 一般集団・遺族 1975 名を対象とした全国調査の結果から。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 8. 大谷弘行, 森田達也, 他: 「看取りのパンフレット」を用いた家族への介入研究: OPTIM 浜松。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 9. 山岸暁美, 森田達也, 他: 外来進行がん患者の疼痛と Quality of Life に関する多施設調査: OPTIM-study。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 10. 宮下光令, 森田達也, 他: 地域の病院 (一般病棟、緩和ケア病棟)、診療所のがん患者の遺族による緩和ケアの質の評価: OPTIM-study。第15回日本緩和医療学会学術大会。2010. 6, 東京
 11. 宮下光令, 森田達也, 他: がん医療に対する安心感尺度の作成と関連要因: OPTIM-study。第15回日本緩和医療学会学術集会。2010. 3, 東京

- 術大会. 2010. 6, 東京
12. 鈴木留美, 森田達也, 他: 外来で実施可能な緩和ケアのニーズを把握する問診票: 「生活のしやすさの質問票」第3版を使用した2000件の実践: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 13. 福本和彦, 森田達也, 他: 麻薬導入タイトレーションパス作成の効果: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 14. 赤澤輝和, 森田達也, 他: 病院内のどこにどんな緩和ケアの冊子をおいたらいいのか?: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 15. 前堀直美, 森田達也, 他: 保険薬局薬剤師の電話モニタリングによる症状緩和の評価: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 16. 末田千恵, 森田達也, 他: がん患者の遺族は、どのくらい介護負担感を感じているのか?: OPTIM-studyによる多施設調査. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 17. 山田博英, 森田達也, 他: 地域のがん患者・遺族調査の自由記述の内容分析に基づく病院医師向け緩和ケアリーフレット作成: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 18. 野末よし子, 森田達也, 他: 地域における介護保険の迅速化介入のフォローアップ調査: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6. 18~19 東京
 19. 平井啓, 森田達也, 他: がん患者と遺族の緩和ケアに対する認識と準備性 OPTIM study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 20. 笹原朋代, 森田達也, 他: 標準化した緩和ケアチームの活動記録フォーマットの実施可能性に関する多施設共同研究~パイロットスタディの結果~. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 21. 小田切拓也, 森田達也, 他: 原因不明の神経症状と疼痛で緩和ケアチームに紹介された患者の原因と転帰. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 22. 白土明美, 森田達也, 他: 「希望をもちながらも、同時にこころ残りのないように準備しておく」ために医師や看護師は何ができるのか: J-HOPE study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 23. 清水陽一, 森田達也, 他: 遺族からみた死前喘鳴に対する望ましいケア: J-HOPE STUDY. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 24. 佐藤一樹, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟で提供された終末期がん医療の実態に関する多施設診療記録調査: J-HOPE study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 25. 三條真紀子, 森田達也, 他: 家族の視点から見た望ましい緩和ケアシステム: J-HOPE Study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 26. 三條真紀子, 森田達也, 他: 終末期のがん患者を介護した遺族の介護経験の評価及び健康関連 QOL: 7994名の全国調査 J-HOPE Study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 27. 安藤満代, 森田達也, 明智龍男, 他: 病気の体験に意味を見出す Japan Benefit Finding Scale 開発の試み. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 28. 和田信, 森田達也, 大西秀樹, 他: EORTC-QLQ-C15PAL 日本語版の信頼性と妥当性の検討. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 29. 宮下光令, 森田達也, 他: がん患者に対する緩和ケアの構造・プロセスを評価する尺度(患者版 Care Evaluation Scale)の信頼性と妥当性の検討. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 30. 宮下光令, 森田達也, 他: がん患者に対する包括的 QOL を測定する尺度の信頼性と妥当性の検討. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 31. 宮下光令, 森田達也, 内富庸介, 他: 「緩和ケアの質の臨床指標 (Quality Indicator)」は遺族から見て妥当なのか? 緩和ケア病棟の遺族に対する質問紙調査から. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 32. 宮下光令, 森田達也, 他: 日本の医師 97,961 人に対する緩和ケアに関する知識の実態調査. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 33. 五十嵐歩, 森田達也, 他: 終末期がん患者における死亡場所と死亡前の療養場所の特徴: OPTIM-study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
 34. 秋山美紀, 森田達也, 他: 地域で療養生活

- を送ることに関する患者、家族の安心感とその要因：OPTIM-study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
35. 伊藤富士江, 森田達也, 他: 理論サンプリングに基づく診療所訪問による在宅緩和医療の課題と解決策の抽出: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 36. 青木茂, 森田達也, 他: 地域緩和ケアプログラムによる在宅死亡数の変化と、同一地域における在宅・ホスピス・病院死亡患者の遺族の評価の差: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 37. 古村和恵, 森田達也, 他: 進行がん患者および遺族は在宅療養について「急な変化や夜間に対応できない」「病院と同じように苦痛を和らげられる」と思っているか?: OPTIM study による多施設調査. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 38. 宮下光令, 森田達也, 他: 在宅ホスピスケアを受けたがん患者の遺族の在宅療養開始時の意思決定過程: J-HOPE study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 39. 佐々木一義, 森田達也, 他: 地域緩和ケアプログラムによる専門緩和ケアサービスの利用状況の変化: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 40. 井村千鶴, 森田達也, 他: 地域における緩和ケアの連携を促進するための地域多職種カンファレンスの有用性: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 41. 細田修, 森田達也, 他: 診療所における地域緩和ケアカンファレンスの有用性の質的分析: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 42. 古村和恵, 森田達也, 他: 「わたしのカルテ」の運用課題と有用性に関する多地域・多施設インタビュー調査: OPTIM study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 43. 山岸暁美, 森田達也, 他: 地域で緩和ケアを普及させるために取り組むべき課題は何か?: OPTIM study 一介入4地域の医療福祉従事者によるフォーカスグループからの課題抽出と意見交換会の評価-. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 44. 安藤満代, 森田達也, 明智龍男: 終末期患者のスピリチュアルケアとしての短期回想法における語りの内容分析. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 45. 坂井さゆり, 森田達也, 他: スピリチュアルケアにおけるケア提供者の基本的態度・考え方の構造—緩和ケア熟練専門職の語りから—. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 46. 吉田沙蘭, 森田達也, 他: 患者に対する予後告知が家族に及ぼす影響の探索—遺族への面接調査の結果から—. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 47. 三條真紀子, 森田達也, 他: 「終末期がん患者の家族が大事にしたいと思うこと」の構成要素: 家族と遺族を対象とした面接調査の結果から. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 48. 三條真紀子, 森田達也, 他: ホスピス・緩和ケア病棟への入院検討時の家族のつらさと望ましい支援に関する質的研究: 遺族への面接調査の結果から. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 49. 牟田理恵子, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟の遺族は追悼会や死別後の手紙をどうとらえているか?: 44名のインタビュー調査. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 50. 福田かおり, 森田達也, 他: 「看取りのパンフレット」を用いた遺族の体験に関する質的研究: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 51. 木澤義之, 森田達也, 他: 地域の医療機関に勤務する医師の緩和ケアに関する知識・実践・困難感は? がん対策のための戦略研究『緩和ケア普及のための地域プロジェクト』介入前調査から: OPTIM-study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 52. 赤澤輝和, 森田達也, 他: 地域に一斉配布した緩和ケアの啓発マテリアルはどうなっているのか? OPTIM 浜松からの全数実態調査. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 53. 武林亨, 森田達也, 他: 緩和ケア・医療用麻薬に関する患者、家族の知識とケアの質評価尺度および緩和ケアの準備状態との関連: OPTIM-study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
 54. 宮下光令, 森田達也, 他: 診療記録から抽出する緩和ケアにおける診療の質の管理

- 評価指標群 (Quality Indicator) の作成と測定. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
55. 中澤葉字子, 森田達也, 他: がん診療連携拠点病院緩和ケアチームのコンサルテーション活動に関する実態調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
56. 川口知香, 森田達也, 他: 緩和ケアチーム看護師の専従化が緩和ケアチームの活動に及ぼす効果: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
57. 堀江良樹, 森田達也, 他: Second opioid の有効性に関するケースシリーズ. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
58. 鄭陽, 森田達也, 他: 難治性の肛門症状に対する不對神経節ブロックの有効性. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
59. 和田信, 森田達也, 大西秀樹, 他: 新規抗がん薬第一相臨床試験に関する患者心理の研究. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
60. 森田達也: 教育講演 3 終末期せん妄を有する患者家族のケア. 第 23 回日本サイコオンコロジー学会・第 10 回日本認知療法学会. 2010. 9, 愛知
61. 前堀直美, 森田達也, 他: 保険薬局薬剤師の電話モニタリングによる症状緩和の評価: OPTIM 浜松. 第 4 回緩和医療薬学会年会. 2010. 9, 鹿児島
62. 森田達也: 学術セミナー 23 緩和治療の最新のエビデンスと実践—がん疼痛ガイドラインを中心に— 第 48 回日本癌治療学会学術集会. 2010. 10, 京都

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
明智龍男, 内富庸介	がん患者の抑うつ症状緩和	樋口輝彦	別冊・医学のあゆみ 最新うつ病のすべて	医歯薬出版株式会社	東京	2010	160-164
内富庸介, 他	悪性腫瘍	下田和孝	脳とこころのプライマリケア1うつと不安	株式会社シナジー	東京	2010	354-362
内富庸介	精神腫瘍学概論	大西秀樹	専門医のための精神科臨床リュミエール24	中山書店	東京	2010	2-12
藤森麻衣子, 内富庸介	がん医療におけるコミュニケーションスキル	大西秀樹	専門医のための精神科臨床リュミエール24	中山書店	東京	2010	139-148
藤森麻衣子, 内富庸介	Bad Newsの伝え方・予後の話し合い方		消化器Book01 胃癌を診る・治療する 早期発見から緩和ケア	株式会社羊土社	東京	2010	146-152
明智龍男	せん妄なのか、アカシジアなのか分からない時の対応	森田達也, 新城拓也, 林あかり子	緩和ケアのちょっとしたコツ	青海社	東京	2010	238-240
明智龍男	希死念慮・自殺	大西秀樹	専門医のための精神科臨床リュミエール24 サイコロンコロジー	中山書店	東京	2010	69-74
明智龍男	精神症状の基本	小川朝生, 内富庸介	これだけは知っておきたいがん医療における心のケア	創造出版	東京	2010	53-60
小川朝生	心のケアの考え方 精神心理的苦痛のアセスメント	小川朝生, 内富庸介	精神腫瘍学が「ケツガイト」これだけは知っておきたいがん医療における心のケア	創造出版	東京	2010	36-52
小川朝生	せん妄への対応	小川朝生, 内富庸介	精神腫瘍学が「ケツガイト」これだけは知っておきたいがん医療における心のケア	創造出版	東京	2010	61-80

小川朝生	認知症への対応	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ポ ケットガイド これだけは知っ ておきたいが ん医療におけ る心のケア	創造出版	東京	2010	81-90
小川朝生	がん患者をチームで診 る	松島英介	現代のエスプ リ がん患者 のこころ	株式会社 ぎょうせい	東京	2010	136-147
小川朝生	コンサルテーションの 基本	大西秀樹	サイコオンコ ロジー	株式会社 中山書店	東京	2010	13-25
岡村 仁	2. がんの治療の流れと 心のケア.	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ポ ケットガイド これだけは知 っておきたい がん医療にお ける心のケア	創造出版	東京	2010	3-7
岡村 仁	15. 情報.	小川朝生、 内富庸介	精神腫瘍学ポ ケットガイド これだけは知 っておきたい がん医療にお ける心のケア	創造出版	東京	2010	147-149
岡村 仁	精神症状の評価とマネ ージメント 9. 高齢 者/認知症.	大西秀樹	専門医のため の精神科臨床 リュミエール 24 サイコオ ンコロジー	中山出版	東京	2010	120-126
大西秀樹	家族・遺族ケア	松下正明 山内俊雄	サイコオンコ ロジー 専門医のため の精神科臨床 リュミエール 24	山中書店	東京	2010	128-139
森田達也	13. 輸液・栄養補給 Q66 終末期の輸液の考え方を 教えてください.	堀夏樹, 小 澤桂子	一般病棟でで きる緩和ケア Q&A改訂版	総合医学 社	東京	2010	146-147
森田達也	18. 鎮静 (セデーション) Q83鎮静とは何で すか?.	堀夏樹, 小 澤桂子	一般病棟でで きる緩和ケア Q&A改訂版	総合医学 社	東京	2010	182-183
森田達也	18. 鎮静 (セデーション) Q85鎮静に使われ る薬剤の使い方を教え てください.	堀夏樹, 小 澤桂子	一般病棟でで きる緩和ケア Q&A改訂版	総合医学 社	東京	2010	186-187
社団法人日 本医師会 (監)		森田達也, 他	がん緩和ケア ガイドブック	青海社	東京	2010	

日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会		日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版	金原出版	東京	2010	
日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会		日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会	苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2010年版	金原出版	東京	2010	
森田達也	IV. 緩和医療 1. 緩和医療概論.	大西秀樹	専門医のための精神科臨床リュミエール 24 サイコオンコロジー	中山書店	東京	2010	150-163

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Akechi T, Okamura H, Shimizu K, Uchitomi Y, et al	Gender differences in factors associated with suicidal ideation in major depression among cancer patients	Psychooncology	19	384-389	2010
Asai M, Akechi T, Shimizu K, Ogawa A, Uchitomi Y, et al	Psychiatric disorders and stress factors experienced by staff members in cancer hospitals: a preliminary finding from psychiatric consultation service at National Cancer Center Hospitals in Japan	Palliat Support Care	8	291-295	2010
Asai M, Uchitomi Y, et al	Psychological states and coping strategies after bereavement among the spouses of cancer patients: a qualitative study	Psychooncology	19	38-45	2010
Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al	Psychiatric Disorders in Patients Who Lost Family Members to Cancer and Asked for Medical Help: Descriptive Analysis of Outpatient Services for Bereaved Families at Japanese Cancer Center Hospital	Jpn J Clin Oncol			2010
Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al	Bereavement dream? Successful antidepressant treatment for bereavement-related distressing dreams in patients with major depression	Palliat Support Care	8	95-98	2010

<u>Kishimoto Y, Uchitomi Y, et al</u>	Kana Pick-out Test and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease	Int Psychogeriatr		1-8	2010
<u>Matsumoto Y, Shimizu K, Uchitomi Y, et al</u>	Suicide associated with corticosteroid use during chemotherapy: case report	Jpn J Clin Oncol	40	174-176	2010
<u>Nakaya N, Uchitomi Y, et al</u>	Personality traits and cancer risk and survival based on Finnish and Swedish registry data	Am J Epidemiol	172	377-385	2010
<u>Nakaya, N Uchitomi Y, et al</u>	Increased risk of severe depression in male partners of women with breast cancer	Cancer	116	5527-5534	2010
<u>Ogawa A, Shimizu K, Uchitomi Y, et al</u>	Involvement of a psychiatric consultation service in a palliative care team at the Japanese cancer center hospital	Jpn J Clin Oncol	40	1139-1146	2010
<u>Shimizu K, Ogawa A, Uchitomi Y, et al</u>	Feasibility and usefulness of the 'Distress Screening Program in Ambulatory Care' in clinical oncology practice	Psychooncology	19	718-725	2010
<u>Akechi T, et al</u>	Anticipatory nausea among ambulatory cancer patients undergoing chemotherapy: Prevalence, associated factors, and impact on quality of life	Cancer Sci	101(12)	2596-2600	2010
<u>Akechi T, et al</u>	Delirium training program for nurses.	Psychosomatics	51(2)	106-111	2010
<u>Uchida M, Akechi T, et al.</u>	Patients' Supportive Care Needs and Psychological Distress in Advanced Breast Cancer Patients in Japan	Jpn J Clin Oncol			2010
<u>Katsumata R, Akechi T, et al</u>	A case with Hodgkin lymphoma and fronto-temporal lobular degeneration (FTLD)-like dementia facilitated by chemotherapy.	Jpn J Clin Oncol	40(4)	365-8	2010
<u>Azuma H, Akechi T, et al</u>	Paroxysmal nonkinesigenic dyskinesia with depression treated by bilateral electroconvulsive therapy.	J Neuropsychiatry Clin Neurosci	22(3)	352d e6-352 e6	2010

<u>Ando M, Morita T, Akechi T, et al</u>	Efficacy of short-term life-review interviews on the spiritual well-being of terminally ill cancer patients.	J Pain Symptom Manage	39(6)	993-1002	2010
<u>Akazawa T, Akechi T, Morita T, et al</u>	Self-perceived burden in terminally ill cancer patients: a categorization of care strategies based on bereaved family members' perspectives.	J Pain Symptom Manage	40(2)	224-34	2010
<u>Ando M, Morita T, Akechi T</u>	Factors in the Short-Term Life Review that affect spiritual well-being in patients.	The Journal of Hospice and Palliative Nursing			in press
<u>Akechi T, et al</u>	Social anxiety disorder as a hidden psychiatric comorbidity among cancer patients.	Palliative & Supportive Care			in press
<u>Ando M, Morita T, Akechi T, et al</u>	Development of a Japanese Benefit Finding Scale (JBFS) for Patients With Cancer.	Am J Hosp Palliat Care			in press
<u>Ando M, Morita T, Akechi T, et al</u>	A qualitative study of mindfulness-based meditation therapy in Japanese cancer patients.	Support Care Cancer			in press
<u>Ozono S, Okamura H, et al</u>	Psychological distress related to patterns of family functioning among Japanese childhood cancer survivors and their parents.	Psycho-Oncology	19	545-552	2010
<u>Funaki Y, Okamura H, et al</u>	Effect of exercise on a speed feedback therapy system in elderly persons.	Phys Occup Ther Geriatr	28	131-143	2010
<u>Hanaoka H, Okamura H, et al</u>	Psychosocial factors that influence the effects of obesity improvement programs.	J Rural Med	5	175-183	2010
<u>Inoue S, Okamura H, et al</u>	Assessment of the efficacy of foot baths as a means of improving the mental health of nurses: a preliminary report.	J Health Sci Hiroshima Univ			in press
<u>Ishida M, Onishi H, et al.</u>	Bereavement Dream? - Successful antidepressant treatment for bereavement-related distressing dreams in patients with major depression	Palliative & Supportive Care	8	95-98	2010
<u>Ishida M, Onishi H, et al</u>	"Psychiatric disorders in patients who lost family members to cancer and asked for medical help: descriptive analysis of outpatient services for bereaved families at Japanese cancer center hospital"	Japanese Journal of Clinical Oncology			in press

<u>Shinjo T, Morita T, et al</u>	Care for the Bodies of Deceased Cancer Inpatients in Japanese Palliative Care Units.	J Palliat Med	13	27-31	2010
<u>Shinjo T, Morita T, et al</u>	Care for imminently dying cancer patients: family members' experiences and recommendations.	J Clin Oncol	28	142-148	2010
<u>Okamoto T, Morita T, et al</u>	Religious care required for Japanese terminally ill patients with cancer from the perspective of bereaved family members.	Am J Hosp Palliat Med	27	50-54	2010
<u>Ando M, Morita T, et al</u>	Factors that influence the efficacy of bereavement life review therapy for spiritual well-being: a qualitative analysis.	Support Care Cancer	19	309-314	2010
<u>Nakazawa Y, Morita T, et al</u>	The palliative care self-reported practices scale and the palliative care difficulties scale: reliability and validity of two scales evaluating self-reported practices and difficulties experienced in palliative care by health professionals.	J Palliat Med	13	427-437	2010
<u>Hyodo I, Morita T, et al</u>	Development of a predicting tool for survival of terminally ill cancer patients.	Jpn J Clin Oncol	40	442-448	2010
<u>Ise Y, Morita T, et al</u>	Role of the community pharmacy in palliative care: a nationwide survey in Japan.	J Palliat Med	13	733-737	2010
<u>Ando M, Morita T, et al</u>	Value of religious care for relief of psycho-existential suffering in Japanese terminally ill cancer patients: the perspective of bereaved family members.	Psychooncology	19	750-755	2010
<u>Yamada R, Morita T, et al</u>	Patient-reported usefulness of peripherally inserted central venous catheters in terminally ill cancer patients.	J Pain Symptom Manage	40	60-66	2010
<u>Hisanaga T, Morita T, et al</u>	Multicenter prospective study on efficacy and safety of octreotide for inoperable malignant bowel obstruction.	Jpn J Clin Oncol	40	739-745	2010
<u>Igarashi A, Morita T, et al</u>	Changes in medical and nursing care after admission to palliative care units: a potential method for improving regional palliative care.	Support Care Cancer	18	1107-1113	2010

<u>Ando M, Morita T, et al</u>	Effects of bereavement life review on spiritual well-being and depression.	J Pain Symptom Manage	40	453-459	2010
<u>Ando M, Morita T, Akechi T</u>	Factors in the short-term life review that affect spiritual well-being in terminally ill cancer patients.	J Hosp Palliat Nurs	12	305-311	2010
<u>Choi J, Morita T, et al</u>	Preference of place for end-of-life cancer care and death among bereaved Japanese families who experienced home hospice care and death of a loved one.	Support Care Cancer	18	1445-1453	2010
<u>Yamagishi A, Morita T, et al</u>	The care strategy for families of terminally ill cancer patients who become unable to take nourishment orally: Recommendations from a nationwide survey of bereaved family members' experiences.	J Pain Symptom Manage	40	671-683	2010
<u>Ando M, Morita T, Akechi T, et al</u>	A qualitative study of mindfulness-based meditation therapy in Japanese cancer patients.	Support Care Cancer	May 16	[Epub ahead of print]	2010
<u>Yoshida S, Morita T, et al</u>	Experience of families of Japanese patients with cancer for prognostic disclosure.	J Pain Symptom Manage	Dec 9	[Epub ahead of print]	2010

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
高橋真由美, <u>小川朝生</u> , <u>内富庸介</u> , 他	緩和ケア領域におけるうつ病	総合隣牀	59	1224-1230	2010
大谷恭平, <u>小川朝生</u> , <u>内富庸介</u> , 他	介護における認知機能障害	腫瘍内科	5	202-210	2010
<u>内富庸介</u>	精神腫瘍学概論	岡山医学会雑誌	122	119-124	2010
<u>内富庸介</u> , 他	がん患者の心理的反応に配慮したコミュニケーション	日本整形外科学会雑誌	84	331-337	2010
白井由紀, <u>小川朝生</u> , <u>内富庸介</u> , 他	がん治療中の患者の精神症状	エビデンスにもとづいた OncologyNursing	総集編	163-167	2010
森田達也, <u>内富庸介</u> , 他	がん患者が望む「スピリチュアルケア」89名のインタビュー調査.	精神医学	52	1057-1072	2010
<u>清水 研</u>	がん患者の精神症状とそのスクリーニング	臨床精神薬理	13	1287-1294	2010
<u>清水 研</u>	サバイバーとサバイバーシップ	腫瘍内科	5	95-99	2010
<u>小川朝生</u>	精神科医への期待 いま進められている事業から	精神神経学雑誌	112	1010-1017	2010

小川朝生	【がんの告知と看護師の役割 看護師のコミュニケーション技術】医療者間のコミュニケーション	がん看護	15	50-52	2010
小川朝生	がんチーム医療におけるコミュニケーション・スキル	Oncology Nursing	1	22-25	2010
井上 誠, 岡村 仁, 他	介護老人保健施設入所者にみられる抑うつとその関連要因－抑うつ徴候の早期発見と効果的な介護介入－.	人間と科学	10	105-114	2010
繁本 梢, 岡村 仁	リハビリテーション部門における遺族ケア.	臨床看護 臨時増刊号	36	567-572	2010
繁本 梢, 岡村 仁	がんサバイバーシップのリハビリテーション.	腫瘍内科 5: 151-155	5	151-155	2010
小早川 誠, 岡村 仁, 他	日本における緩和医療の現状と展望.	臨床精神薬理 13: 1279-1285	13	1279-1285	2010
岡村 仁	がん医療に携わる心のケア従事者への教育.	精神神経学雑誌 112: 1024-1027	112	1024-1027	2010
花岡秀明, 岡村 仁, 他	高齢者の回想に関連する要因の検討 - 回想の質と量に着目して - .	作業療法ジャーナル			印刷中
三木恵美, 岡村 仁, 他	末期がん患者に対する作業療法士の関わり～作業療法士の語りの質的内容分析～.	作業療法			印刷中
大西秀樹, 他	がん患者の遺族ケア	現代のエスプリ	517	185-193	2010
大西秀樹, 他	家族心理	臨床精神医学	39	879-996	2010
大西秀樹	遺族との対話	健康	2010秋	30-31	2010
荻野和功, 森田達也	がん医療はどう変わったのか「がん対策基本法」施行から2年半. 浜松地域のリーダーとして現場のニーズを常に念頭に入れがんになっても安心な環境づくりに取り組む.	medi. magazine	冬号 通巻04号	20-24	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	浜松市のがん患者に対するケアマネジメントの実態調査.	緩和ケア	20	92-98	2010

森田達也	シリーズ「がん」緩和ケア、普通の暮らしを願って.	朝日新聞社		http://www.asahi.com/health/essay/TKY201001280383.html	2010
森田達也, 他	特集 進歩するがん診療 鼎談②緩和ケアの最前線.	日本医事新報	4475	45-55	2010
森田達也, 他	末期がんだけではない「緩和ケア」は、ここまで進化した.	ナーシングカレッジ	14	44-50	2010
吉田沙蘭, 森田達也, 他	難治性小児がん患者の家族が経験する困難の探索.	小児がん	47	91-97	2010
森田達也	緩和医療 緩和ケアチームと緩和ケア病棟.	臨床麻酔	34 (臨時増刊号)	431-443	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み—フォーカスグループの有用性.	緩和ケア	20	204-209	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み—フォーカスグループの有用性 2.	緩和ケア	20	308-312	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	緩和ケアチームによる診療所へのアウトリーチプログラムの有用性.	癌と化学療法	37	863-870	2010
森田達也	末期肺癌の緩和ケア (Q&A)	日本医事新報	4497	79-80	2010
森田達也	経験したことを伝えていこう 研究論文の書き方 第1回 論文を書く、その前に—原著論文の査読システムを知る—.	緩和ケア	20	379-383	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み—フォーカスグループの有用性 3.	緩和ケア	20	417-422	2010
森田達也	がん性疼痛治療 がん性疼痛ガイドラインの作成.	Mebio	27	24-28	2010
森田達也	経験したことを伝えていこう 研究論文の書き方 第2回 「はじめに」を書く.	緩和ケア	20	513-516	2010
森田達也	在宅の視点をもった緩和ケアチーム.	地域緩和ケアリンク	10	2	2010
小田切拓也, 森田達也	そこが知りたい! 緩和ケアにおける服薬指導 第I部緩和ケアにおいて服薬指導に何が求められるか.	緩和ケア	20 (10月増刊号)	2-5	2010

伊藤富士江, <u>森田達也</u> , 他	がん在宅緩和医療の課題と解決策に関する診療所医師を対象とした訪問調査.	緩和ケア	20	641-647	2010
余宮きのみ, <u>森田達也</u>	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版を読み解く オピオイド鎮痛薬を中心に.	ペインクリニック	31	1477-1483	2010
<u>森田達也</u>	経験したことを伝えて行こう 研究論文の書き方 第3回「対象・方法」を書く.	緩和ケア	20	605-610	2010
新城拓也, <u>森田達也</u> , 他	主治医による死亡確認や臨終の立ち会いが, 家族の心理に及ぼす影響についての調査研究.	Palliat Car Res	5	162-170	2010
赤澤輝和, <u>森田達也</u> , 他	緩和ケアについての市民・患者対象の啓発介入の実態調査.	Palliat Car Res	5	171-174	2010

